

令和 3 (2021) 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	企業経営研究 (Business Management) 2037222-105					担当教員	栗井 英大 (クリイ ヒデヒロ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2 年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要

企業の主目的は、重要な経営資源である「人、モノ、金、情報」を組合せ、事業活動を通じて利益を生み出すことである。そこで、「ビジネスモデル」すなわち、企業が利益を生み出すための事業活動の仕組みを知り、企業経営をより深く理解することで、企業人としての感覚を磨くことを目指す。

また、「企業は人なり」と言われるように、「人」をどのように育成・活用するかが、企業経営の成否の分岐点と言っても過言ではない。そこで、優良企業の事例等を学ぶことによって、企業経営、経営者の思考、働き方などへの理解を深める。これにより、企業に所属し、企業の一員として働くとはどういうことかを理解し、就職先から必要不可欠な「自律的な人財」と評価されるべく、勤労マインドを醸成する授業を実施する。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

②職業人として通用する能力 / ③専門的知識・技能を活用する能力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

講義は、パワーポイントを活用し講義を行い、書き込み式の配付資料の空欄を学生自ら埋めていく方法で進める。また、講義冒頭では、記憶の再生、定着を促すために、前回講義の復習を行う。

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。

日々の社会的な出来事も積極的に取り上げるほか、学生の意見を取り入れつつ、講義を進める。そのため、授業内容が変更となる場合がある。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「経営学」

⑤ 標準的な達成レベルの目安

(i) 企業の「ビジネスモデル」を理解・説明することができる。

(ii) 「働く」ことを理解・説明することができる。

⑥ テキスト (教科書)

テキスト指定なし。授業開始時にレジュメを配布する。

⑦ 参考図書・指定図書

稲盛和夫（2009）『働き方』三笠書房

平野敦史カール（2019）『知識ゼロでも今すぐ使える！ビジネスモデル見るだけノート』宝島社
その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法

具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		15%	20%		5%		100%
(i)「ビジネスモデル」の理解・説明	40%		10%	14%		3%		67%
(ii)「働く」ことの意味・説明	20%		5%	6%		2%		33%
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方、試験の方法等について、具体的に説明するので、出席すること。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

学生の理解度・習熟度を確認し、具体例をまじえつつ講義を進めていく

⑩ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	講義ガイダンス ビジネスモデルとは？	筆記用具	講義の復習、ビジネスモデルとは？ 大量生産システム	90分
2	大量生産システム	筆記用具	講義の復習 総合スーパーモデル	90分
3	総合スーパーモデル	筆記用具	講義の復習 消耗品モデル	90分
4	消耗品モデル	筆記用具	講義の復習 SPA	90分
5	SPA	筆記用具	講義の復習 マッチングモデル	90分
6	マッチングモデル	筆記用具	講義の復習 ライセンスモデル、二次利用モデル	90分
7	ライセンスモデル 二次利用モデル	筆記用具	講義の復習 フリー戦略、フリーミアム	90分

8	フリー戦略 フリーミアム	筆記用具	講義の復習 広告モデル	90 分
9	広告モデル	筆記用具	講義の復習 サブスクリプション	90 分
10	サブスクリプション	筆記用具	講義の復習 ホンダと本田宗一郎	90 分
11	企業紹介①ホンダ	筆記用具	講義の復習 京セラと稲盛和夫	90 分
12	企業紹介②京セラ	筆記用具	講義の復習 京セラフィロソフィー	90 分
13	京セラフィロソフィー	筆記用具	講義の復習、 パナソニックと松下幸之助	90 分
14	企業紹介③パナソニック	筆記用具	講義の復習、新卒採用時のポイント、就職活動に向けて	90 分
15	新卒採用の現状 講義のまとめ	筆記用具 全ての配布資料	講義の復習 期末試験に向けた準備学習	90 分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。

- ・ 毎回講義中に課題・問題を出すことにより、インプット型の講義に加えて、学生の知識のアウトプットも重視し、知識の定着を目指す。
- ・ 前回講義中に受け付けた質問・感想、及び宿題の内容について、講義中にフィードバックを行うことで、理解度を高めていく。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

平成 15（2003）年 3 月～平成 24（2012）年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、業界動向等の調査分析・レポート作成業務に従事した。

実務経験と授業科目との関連性

様々な業種のレポート作成に携わった経験を生かし、企業の雇用マネジメント・ビジネスモデルについて、優良企業を中心とした具体的な企業の事例紹介等を交えつつ、分かりやすく説明する。